

2012年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター 運営委員会会議録〈確定稿〉

- 開催日時：2013年1月8日（火） 午後6時30分～8時00分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
- 出席委員：五十嵐強、伊藤隆志、稲葉孝之、内田日出子、小野田恵、佐野美野里、田中紀子、松尾浩邦、山内淑子〈以上9名、敬称略、五十音順〉
- 欠席委員：野口しほり〈以上1名、敬称略〉
- 事務局：望月利将（事務局長）、長山清美（コーディネーター）、篠原保之（係長）

事務局より欠席委員の報告。事務局長より挨拶。その後、資料の確認を行う。

1. 報 告 事 項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局：11～1月の事業について。12月2日（日）軒下ふれあいバザー実施。気温が低く来場者が少なかった。実習生の受け入れ2名。ホームページ検索について。11月12月はアクセス数が、10月と比較して1割増えた。検索ワードでは、「外国語ボランティアについて」「ひばりが丘・田無」等の地域での活動検索、「子どもができるボランティア」「印刷機使用料金」「高齢者疑似体験セット貸出」などでの問い合わせが多かった。コーディネートについて。傾聴ボランティア講座受講者の新規ボランティア登録数が増えた。コーディネート実績表について。12月分のケース対応時間が多かった理由は、数か月継続して対応していたケースの調整が終了したため、その時間数を掲載した。「ボランティア活動の述べ活動時間数」については、新規対応活動については数値に反映されているが、継続して活動しているボランティアの活動時間数は数値に反映できていない。表記方法については今後検討したい。

1月以降の予定について。1月13日（日）西原どんど焼きに参加予定。1月25日（金）ボランティアはじめて講座～保育編～開催。2月4日（月）傾聴ボランティア講座受講者の交流会を開催。2月8日（金）～10日（日）東京ボランティア・市民活動センター主催「ボランティアフォーラム TOKYO2013」に職員が参加予定（2日目）。2月22日（金）ボランティア団体交流会では、傾聴ボランティアを対象に認知症の方への傾聴活動時のコミュニケーションについての学習会を開催。3月1日（金）ボランティア懇談会では、認知症サポーター養成講座を開催。3月12日（火）2012年度第6回運営委員会。3月15日（金）ボランティアはじめて講座～学校でのボランティア活動・障がいのある児童の付添い～を開催。

以上について報告。質疑応答。

委員長：アクセス数が10%増はすごい。理由は分かっているのか。

事務局：「夏!体験ボランティア」開催時のアクセス数に戻った。要因は分析できていない。

委員長：今後も閲覧者が増えるように努めてほしい。

2. 審 議 事 項

2012年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>について、承認。未定稿を確定稿とする。

3. 協 議 事 項

(1). 2013 年度事業について

委員長：まずは、2013 年度の事業について説明をお願いしたい。

事務局：前回の運営委員会でお示した事業計画について、幾つかの変更点を報告する。1 点目に、北多摩北部ブロック連絡会で近隣 6 市合同での「ボランティアコーディネーター研修」を計画していた。施設のボランティア担当者向けに、ボランティアとのより良い関係づくりをテーマに、ここ 4 年間実施したが、2013 年度は 6 市合同の研修会の実施を見合わせ、各市の取り組みとなる。西東京市では、単独での実施を検討したいが、例年よりも事業数を多く予定しているため日程を調整している。大学生向けのアクションとして、東京ボランティア・市民活動センター主催の大学生ボランティアについての連絡会に参加したが、大学生のボランティア参加については、イベント等の企画と一緒に考えるなど、楽しみながら参加してもらい、そのことを足がかりにしてボランティア参加を進めることが有効であるとの話があった。西東京市では、地元の大学のボランティア担当の職員との連携を進めたり、隣接市の大学とのかかわりをつくっていききたい。中高年層へのボランティア参加の働きかけについては、仕事を持っている現役世代へのアプローチを検討するとともに、社会福祉協議会で関わっている高齢者大学や田無総合福祉センターの施設利用者への働きかけを進めていききたい。また、「夏！体験ボランティア」の参加者へのボランティア登録も積極的に声をかけていきたい。また、「ぼらんていあ倶楽部」を含めた情報発信の見直しについては、これまでの検証の中で、情報の更新がなかなかできていなかったが、取り組みとして、毎日の業務の中で取り組み時間を設定することを始め、ボランティア情報の更新を行えるようにしていきたいと考えている。ご意見を頂きたい。

委員長：大きくは 4 点。「夏！体験ボランティア」は例年通りの実施。新たに「スキルアップ研修」が年間 2 回予定されている。「地域ボランティアコーディネーター研修」は、予定が変更されたようだが、これまでも西東京市内での実施を進めた方が良いとの意見も出ていたので、スケジュールに無理が無いように西東京市単独での実施を検討したら良いと思う。大学生向けの働きかけでは、情報を集めてもらっているが、大学ごとに状況も違うと思うので、もう少し情報を集めてもらうと良いのではないかな。忙しい中大変だが、年度中に幾つかの大学に足を向けることができると良いのではないかな。高齢者大学への働きかけについては、丁寧にすすめていけると良いと思う。情報発信については今後も検討が必要だが、スマートフォン利用者が増え、多くの人がホームページを見ている感覚ではないかと思う。今後は、ホームページの内容を工夫していくことが大切になると思う。各委員の意見を頂きたい。

委員：情報発信について。ホームページを見る人も増えていると思うが、年齢が上がるとパソコンではなく紙ベースの情報も必要になる。「ぼらんていあ倶楽部」も継続して力を

入れてほしい。

委員：これまでの傾聴ボランティア講座などでは、ボランティア登録を行う人が少ない時もあった。参加者の年齢層も高いと思うので、講座終了後にどの程度ボランティア活動に参加できるのか、考えてしまう。

事務局：今回は講座受講者 36 名中 32 名の登録があった。実際に活動を始めている人は 7 割くらいになっている。

委員：全受講者が活動に結び付くように働きかけてほしい。新しく参加する人が頼りになると思う。

事務局：幾つかのボランティアグループを見学している受講者もいる。今後、活動参加が増えてくると思う。

委員：だんだん活動者が少なくなっているのが現状。活動を継続できるように支援してほしい。

委員：「ぼらんていあ倶楽部」になかなか触れることがない。私たちは「ぼらんていあ倶楽部」を知っているから意識的に手を伸ばすが、身近では手に入らない。普段、図書館にも行かないし、公民館も利用が少ないと、どこで入手できるのかわからない方も多いと思う。誰にでも手に入るところに置かないと広まらない。

委員：ボランティア活動に興味がない方は、発行物が出回っても手にしないと思う。

委員：「ぼらんていあ倶楽部」の発行ペースはどのくらいか。

事務局：2 か月に 1 回となっている。各市区町村のボランティア情報誌は、毎月発行・季刊発行のところなど発行ペースに違いがある。社会福祉協議会の発行物で、ボランティア関連の記事を掲載してもらう場合もある。

委員：発行は誰がやっているのか。

事務局：記事づくりから印刷まで西東京ボランティア・市民活動センターで行っている。公共機関への配布は交換便で行ない、歯科医師会・郵便局・一部の店舗にも配架を頼んでいる。

委員：西東京市の市報への折り込みはしていないのか。

事務局：市報は全戸配布で、部数も多くなる。また、配布を委託しているので、料金が必要となる。

委員：市報に挟まって配布されれば、多くの人に見てもらえると思うが、予算が必要だと難しいかもしれない。

委員：広報の配布の仕事は、人気がある。希望者がたくさんいるようだ。

委員：やはり、市民の目に触れなければ、どのような発行物も知ってはもらえない。色々な方策を考えて、発行部数を増やすことも考えなければいけない。

委員長：組織機関誌と「ぼらんていあ倶楽部」は内容が違う。なかなか市民の目に触れないという課題はあるが、非常に難しい問題だと思う。

委員：西東京ボランティア・市民活動センターの場所さえ知らない人がいる。周知はした方が良い。

委員：配布にかかる予算を増やすことはできるのか。

事務局：予算はこれから決まるが、情報を必要とする方にどのように届けるかを考えると、部数を増やせば解決するものではないと思う。その効果を考えると、発行部数を増やし

ていくことは慎重に考えなければならない。送り先については、検討をすすめる必要はあると思う。

委員：どこに置いたとしても読んでもらえるかは別の問題だと思う。関心が無ければ読むことはないと思う。紙面を変えても手に取ってくれるかは難しい問題だと思う。

事務局：民間のミニコミ誌などへの掲載は効果がある。「ぼらんていあ倶楽部」自体の知名度を上げていかないといけない。

委員長：パソコンでの情報は求める側が自分で選んで見てくれるが、紙媒体の情報は、読む側とのコミュニケーションを考えていかないといけない。いろいろな場所に置いておくだけでは意味がないし、興味がない人には読まれることはないと思う。何かの目的を持った仕掛けがないと手にとってはもらえない。置くところを増やすことは、一定の効果はあるのではないか。

委員：配架した「ぼらんていあ倶楽部」は、どのくらい読まれているのか。その数は把握できているのか。

事務局：手に取ってもらえた数は把握しきれていない。直接施設に持ち込む場所では、残数が分かるが、ほとんどが交換便で配架をしているだけになっている。「夏！体験ボランティア」のチラシも同様で、以前に直接配布していた時は、担当者に声かけをしながら渡してきたが、現在は郵送しているので、配架先でどのように置かれているかもわからない。

委員：それほど興味深く見られるものではないと思う。

委員：社会福祉協議会の中では、ボランティア・市民活動センターの位置づけはどうなっているのか。内部機関と考えれば、社会福祉協議会の中での重点ポイントとして位置づけはできないものか。一般的に広告は、その商品を買った人が見るもの。興味がないと一切見ない。ボランティアに関しては、関心を持ってもらうような雰囲気を作っていないと読まれることはない。社会福祉協議会の発行物と組み合わせて配布してもらえないか。社会福祉協議会の発行物に記事を掲載するだけでなく、折り込み紙面として一緒に配ってもらうことは有効だと思う。

委員長：社会福祉協議会の根幹に関わることになってきた。簡単には解決しない。社会福祉協議会として、時間をかけて検討してもらいたい。「ぼらんていあ倶楽部」については、特効薬は無いと思う。

委員：ホームページからも「ぼらんていあ倶楽部」は閲覧できるので、パソコンから見てももらうことも可能であると思う。

委員：ボランティアというと福祉系というイメージがある。大学内でボランティア情報誌を発行しているが、社会福祉学部の学生のみ配っている。大学祭の時に、福祉系の学部以外の学生から、ボランティア活動に興味があるので読んでみたいと声をかけてもらったことがある。学校の協力をもらえるのであれば、全学部に広めていきたいと考えている。

委員：ボランティアをやっていない人には情報誌は届かない。公民館に置いて、ボランティアをやっていない人しか見ることがないと思う。

委員：市民の中で、ボランティア活動の位置づけが低いのだと思う。行政からの情報の中に入ってくれば、興味を持ってくれることもある。広報紙そのものよりボランティア自

体に対する興味・認知が無いことが原因だと思う。ボランティアに関心がある人はいると思うが、積極的に考える人は少ない。何かのきっかけで、ボランティアの情報を得ようと思うのではないか。

委員：ボランティアというものが、当たり前ようになっていかないと状況は変わらないと思う。

委員：学校の中では、ボランティア活動に取り組む教育はなされていないのではないか。

委員：先生の異動も早く、ボランティア活動の普及については、授業の内容が引き継がれないことが多いと思う。

委員：学校から、行事のボランティア募集の手紙が届いたら、参加するボランティアは多かった。学校からの案内なら、参加を考える人はいると思う。

委員：親も「学校から来た話なら」と参加を考える人が多くなる。学校からの案内は、大きな要因になる。

委員：先生方は忙しいとは思いますが、チラシ1枚で状況は変わる。ぜひ積極的に学校にもボランティアに対する取り組みをしてほしい。

事務局：先生方となかなか話ができているが、学校での周知活動では、先生方の協力をいただかないと進めることができないと思われる。今後、先生方と話す機会をつくりたい。

委員：指導要領が変わって、外国語の活動が増え、総合的な学習の時間が少なくなってしまった。削減された時間は、ボランティア活動や福祉体験になってしまう。学校は「地域に目を向けていく」という観点は持っているので、子どもたちがボランティア活動に目を向けていくことは進めていきたいが、子どもに任せていては、成果はないと思う。子どもたちのまわりの人間が働きかけをしたり、資料を見せていかないとすすんではいけない。

委員：まずは児童の保護者がボランティア活動に参加してみようと考えてもらわないとすすまないと思う。

委員：個人と団体では、ボランティア活動の質が違ってもいいが、年々ボランティアの参加が増えてくると子どもの親の参加も増えてくる。子どもも多くなると親も多くなる。PTAでも子どもの活動のサポート制度を作っている。親として手伝えるところはないかを調査している。地域活動に関心を持ってきている状況はあると思う。やっと地域と学校の「人間がふれあう時間」が増えてきたのに、また、だんだんと減る傾向にあるのは残念。これからの教育の中に「小学生ができるボランティア活動」は大切な要素だと思う。子どもたちを取り込んだ活動の取り組みをすすめてほしい。

委員：現在の社会人は、仕事を持ちながら他の生活も楽しんでいる。その一つがボランティア活動だと思う。思い切って、仕事をしている「現役世代」の人に働きかけて、スキルを活かしたボランティア活動に参加してもらうことを検討してもらいたい。

委員長：人間関係で人は集まってくると思う。人が人を集めてくる。人を求めているということをいつも発信すること、そして、呼びかける人がどれだけいるかがポイントになると思う。学校の問題は、簡単ではない。情報発信については課題も多いが、これからも議論をしていただきたい。また、大学へは働きかけをしてほしい。

事務局：福祉の大学でなくても、ボランティア参加は広まっている。思い立った時に身近に情報があるかどうか大きなポイントだと思う。最新の情報を提供するためには、課題

は多いと思う。

委員長：では、次に新規運営委員について説明してほしい。

事務局：地元の大学からは、ボランティア部の1年生を2名ご紹介いただいた。西東京市の校長会から1名の選出が予定されている。2期目の委員には継続をお願いしている。残る新規の3名については、地域活動に参加し、子どもへの学習指導ボランティア活動を主催している代表者、傾聴ボランティアグループの代表者、市内高齢者施設の管理者で学校での地域活動をされている方に受諾していただいた。3月に事務手続きをすすめる。

委員長：2期目の方はよろしくお願ひしたい。学校の先生は忙しいとは思いますが、今回のように貴重な意見を今後もいただきたい。

以上で、今日の協議を終わりにしたい。

5. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

日 時：2013年3月12日（火）18:30～20:30

会 場：田無総合福祉センター 4階第3会議室

以上をもって、2012年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し散会する。